

Japan Inclusive Football Federation

ANNUAL REPORT 2023

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
年次報告書 2023



サッカーなら、 どんな障害も 超えられる。

日本の人口の9.2%は障がい者です。
その障がいは多様で、
ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、
サッカーを心から楽しめる環境を。
社会にある“障害”を超えていく
きっかけづくりも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、活動しています。



CONTENTS

3 会長あいさつ

SPECIAL

障がい者サッカー日本代表による

4 JFAサッカー日本代表ユニフォーム順次着用開始

TOPICS 01

8 健康増進と共生社会づくりを 両輪で推進する取り組みを開始

TOPICS 02

10 障がいのある子どもたちに焦点を当てた 新たなプログラムをイベントで初実施

TOPICS 03

11 東京都港区・港区教育委員会・JIFFによる 連携協力協定を締結

12 2023年度事業報告

15 2024年度事業計画

16 JIFFパートナー制度 パートナー／支援団体／助成団体一覧

18 JIFF概要

19 財務報告

本連盟が設立され9年目を迎えました。7つの障がい者サッカーの発展、日本サッカー協会（JFA）をはじめとするサッカーファミリーとの連携がより強固になる中、共生社会実現へ向けた活動は着実に前進しています。

障がい者サッカーによる

JFAサッカー日本代表ユニフォーム順次着用開始

障がい者サッカーに関わるすべての人々の長年の悲願

である、障がい者サッカー日本代表によるJFAサッカー日本代表ユニフォーム着用が順次開始される歴史的な年となりました。デフフットサル女子日本代表が世界選手権優勝、デフフットサル男子日本代表が冬季デフリンピック準優勝、世界選手権3位、デフサッカー男子日本代表が世界選手権準優勝、ブラインドサッカー男子日本代表が自力でのパラリンピック出場権を獲得するなど、日本代表チームが大健闘を果たしました。



サッカーから 共生社会の実現を

一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟 会長
北澤豪

誰もが、いつでも、 どこでも楽しめるサッカーとの出会いの場を拡充

JIFF設立初年後から毎年開催している『インクルーシブフットボールフェスタ』では、新たに「障がい者サッカーチャレンジひろば」を取り入れ障がい特性や程度に応じてサッカーを楽しめる取り組みを開始しました。10月6日の世界脳性まひの日および10月10日の世界メンタルヘルスデーに合わせ『インクルーシブ推進WEEKs』として啓蒙活動を充実させ、入口を広げより多くの障がい当事者のサッカーに触れる機会を創出しました。

地域共創・まちづくりへの活用

スポーツ庁やパートナー企業・行政・地域団体 / チーム

と連携し、障がいの有無に関わらずまぜこぜでのウォーキングフットボールを活用しながら、健康増進と共生社会づくりを両輪で推進する取り組みを全国3拠点で展開しました。東京都港区内では、港区・港区教育委員会との3者連携協力協定を締結し、活動の充実をはかるとともに地域内の小中学校での年間を通じて障がいや障がい者サッカーについて学ぶ取り組みとも連携をはかり、障がい者サッカーのまちづくりへの活用を開始しました。

今後も、7つの障がい者サッカーとサッカーファミリーおよびスポーツ界との連携を深め、共生社会実現に向けて活動してまいります。益々のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



障がい者サッカー日本代表による JFAサッカー日本代表ユニフォーム 順次着用開始



障がい者サッカー7競技団体の日本代表チームのデザインを統一したユニフォーム発表記者会見（2017年6月）

2023年4月より障がい者サッカー日本代表が順次着用開始となったJFAサッカー日本代表ユニフォーム（写真はアンブティサッカー日本代表）



2023年4月より、障がい者サッカー日本代表によるJFAサッカー日本代表ユニフォーム着用が順次開始されました。これは障がい者サッカーに関わるすべての方々の長年の悲願で、JIFFが設立された2016年から注力して取り組んできたものです。

JFAユニフォーム着用に向けては、障がい者サッカー7競技団体およびJFAとの連携を着実に進めてきました。2017年6月にそれまでバラバラであった障がい者サッカー7競技団体・13カテゴリー（当時）の日本代表チームのユニフォームデザインを統一しました（アディダスジャパン社による提供）。2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、同大会に出場するサッカー男子（U-24日本代表）、サッカー女子（なでしこジャパン）、5人制サッカー（ブラインドサッカー男子日本代表）をサッカーファミリーが一体となって応援し、性別や年齢、障がいの有無など様々な違いを超えて絆を深め合う「TEAM FOOTBALL JAPAN

2020」が結成され、出場する3つのチームが同一デザインのユニフォームを着用しました。

これらの取り組みをはじめ、日本代表のみならず地域を含めたサッカーファミリーの方々が障がいの有無に関わらず、誰もが、いつでも、どこでもサッカーを楽しめる環境づくりに取り組んできたことで、多くの方々の後押しを受け、今回のユニフォーム着用が実現しました。



2021年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会で出場する3チームが着用した同一デザインのユニフォーム

サッカーファミリーの後押しを受けての メダル獲得

デフフットサル女子日本代表 世界選手権金メダル



©JDFA

2023年11月9日～11月18日にブラジルで開催された「第5回ろう者フットサル世界選手権大会（デフフットサルワールドカップ2023）」では、デフフットサル女子日本代表が初優勝の快挙を達成しました。前回大会は過去最高の5位となりましたが、2023年4月29日～5月10日にイランで開催された「アジア太平洋ろう者フットサル選手権大会」では大会連覇するなど進化を続けてきました。

今大会では予選の総当たり戦を無敗の首位で通過。決勝では前回王者のブラジルと対戦し、PK戦にもつれ込む激闘を制して「世界一」の称号を手に入れました。なお、日本代表はフェアプレー賞を受賞、山本典城監督が最優秀監督賞に選出されました。



©JDFA

デフサッカー男子日本代表 世界選手権銀メダル

2023年9月23日～10月7日にかけて、マレーシアで「第4回ろう者サッカー世界選手権大会」が開催され、デフサッカー男子日本代表が準優勝しました。前回大会は11位でしたが、今大会は決勝トーナメント初戦で大会連覇中のトルコに2-0で勝利するなど強さを見せました。初のメダル獲得を成し遂げ、2025年11月に日本で初開催される「東京2025デフリンピック」へ弾みがつく大会となりました。個人賞でも最優秀選手賞（MVP）に岡田拓也選手、優秀ゴールキーパー賞に松元卓巳選手が選出されました。

デフフットサル男子日本代表 世界選手権銅メダル、 冬季デフリンピック銀メダル

2023年11月9日～11月18日の「デフフットサルワールドカップ2023」では、デフフットサル男子日本代表が3位となり、初のメダルを獲得。前回大会10位からの大躍進となり、フェアプレー賞も受賞、折橋正紀選手が最優秀ゴールキーパー賞に選ばれました。

さらに2024年3月2日～3月12日にトルコで開催された「第20回冬季デフリンピック競技大会」では準優勝し、初の銀メダル獲得となりました。準決勝で強豪スペインに勝利し、決勝では世界王者イランに先制するなど世界一へあと一歩に迫りました。



©JDFA

15カテゴリー目となる CPサッカー女子 日本代表の新設

2023年5月、JIFFの社員である一般社団法人日本CPサッカー協会（JCPFA）が「CPサッカー女子日本代表」を新設しました。JCPFAでは、以前より日本国内の大会において男女混成チームの参加を認め、2017年以降女子選手発掘、育成活動を進めてきました。そして、2023年11月に開催の「アジア・オセアニア大会」、2024年開催予定の「ワールドカップ」へ向けて、女子日本代表チームを発足することとなりました。

また、2023年9月2日～4日にはCPサッカー女子オーストラリア代表を招聘し、J-GREEN堺



©JCPFA

（大阪府）で国際親善試合「Women's CP Football International Friendly Match」を初開催しました。この試合が、障がい者サッカー日本代表がJFAサッカー日本代表ユニフォームを着用後、初めての国内での国際試合開催となりました。

主な大会記録

2023年
4月29日（土）
～5月10日（水）

第4回アジア太平洋ろう者フットサル選手権大会（男子）

デフフットサル男子日本代表 3位

第2回アジア太平洋ろう者フットサル選手権大会（女子）

デフフットサル女子日本代表 優勝（連覇達成）

6月28日（水）
～7月2日（日）

国際親善大会「2023 CATALAN SPORTS WEEK」

CPサッカー男子日本代表 準優勝

9月2日（土）
～4日（月）

国際親善試合「Women's CP-FOOTBALL International Friendly Match」

国内で初開催

9月16日（土）
～17日（日）

国際親善大会「AMP FUTBOL CUP 2023」

アンプティサッカー日本代表 4位

9月23日（土）
～10月7日（土）

第4回ろう者サッカー世界選手権大会 in マレーシア

デフサッカー男子日本代表 準優勝

**岡田拓也選手が最優秀選手賞（MVP）、
松元卓巳選手が優秀ゴールキーパー賞を獲得**

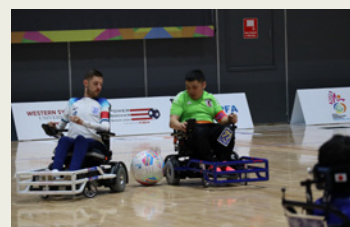
デフサッカー女子日本代表 5位

10月15日（日）
～20日（金）

FIPFAパワーチェアーフットボールワールドカップ2023

電動車椅子サッカー日本代表 7位

内海恭平選手がベストゴールキーパー賞を獲得



©JPFA

11月4日（土）
～11日（土）

IFCPFアジア・オセアニアCPサッカー選手権2023

CPサッカー男子日本代表 3位

浦辰大選手が得点王を獲得

CPサッカー女子日本代表 2位

11月9日
～18日

第5回ろう者フットサル世界選手権大会

（デフフットサルワールドカップ2023）

デフフットサル女子日本代表 優勝（初）

フェアプレー賞を受賞

山本典城監督が最優秀監督賞を獲得

デフフットサル男子日本代表 3位（初）

フェアプレー賞を受賞

折橋正紀選手が最優秀ゴールキーパー賞を獲得



©JDFA



©JDFA

12月16日（土）
～25日（月）

知的障がい者サッカー男子日本代表

～2023アルゼンチン国際マッチ～



©JFFID

12月5日（火）
～7日（木）

知的障がい者サッカー女子日本代表・UAE交流親善マッチ

（日UAE女子フットボール交流プログラム）

2024年
3月2日（土）
～12日（火）

第20回冬季デフリンピック競技大会 in トルコ

デフフットサル男子日本代表 準優勝（初）

デフフットサル女子日本代表 5位



©JDFA



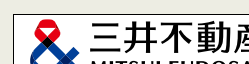
JFA OFFICIAL
TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM
PARTNER





クオールホールディングス社およびスポーツ庁と連携

JIFFでは、パートナー企業であるクオールホールディングス株式会社と協働し、スポーツ庁「令和5年度障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツの実施環境の整備等)に向けたモデル創出事業)」として、ウォーキングフットボール(歩くサッカー)を活用した健康増進と共生社会づくりを両



輪で推進する取り組みを行いました。障がい当事者のスポーツ実施率向上および障がいの有無に関わらず一緒に運動・スポーツを楽しむ場が少ない課題に対し、人の流れのある「オープンスペース」を使用し、ウォーキングフットボールコーディネーター講習会およびイベントを開催しました。イベントは、クオールホールディングス株式会社主催、JIFF共催により、神奈川県川崎市(共催)、広島県江田島市(協力)、愛媛県今治市(協力)3地域で行われました。開催地域は、クオールホールディングス社による自治体ネットワークと、JIFFによるサッカーのネットワーク(全国の障がい者サッカーチーム・団体、Jリーグクラブ、都道府県サッカー協会等)を掛け合わせ、決定しました。

ウォーキングフットボールを活用 地域自走を前提とした新たな連携モデル

本イベントでは、地域での自走を促すため、障がいの有無に関わらず老若男女楽しめる「ウォーキングフットボール」のコーディネーター講習会を各地域で実施し、その受講者を含む地域の障がい者サッカーチーム・団体、Jリーグクラブ等が主体となってイベントの企画運営を進めました。また、各自治体が共催または協力として深く関わることで、特別支援学校や福祉施設等障がい当事者

へ確実に情報を届けました。主催であるクオールホールディングス社からは薬剤師(スポーツファーマシスト)および管理栄養士が近隣店舗からも参加し、イベント冒頭でのスポーツ健康クイズを行ったほか、健康相談や血圧測定・握力測定を行うブースも設置されました。ピッチ外では、ミニフットゴルフを幅広い世代の方々に楽しんでもらいました。



公園内の広場で開催された
歩いてシュート!
だれでもウォーキングフットボール
かわさき

【日程】2023年10月7日(土)
【会場】等々力緑地内 催し物広場
(神奈川県川崎市)
【共催】川崎市
【協力】一般社団法人パラSCエスペランサ、川崎フロンターレ、クオール薬局聖マリアンナ医大前店
【参加者数】73名(障がい当事者33%)
【合計来場者】128名



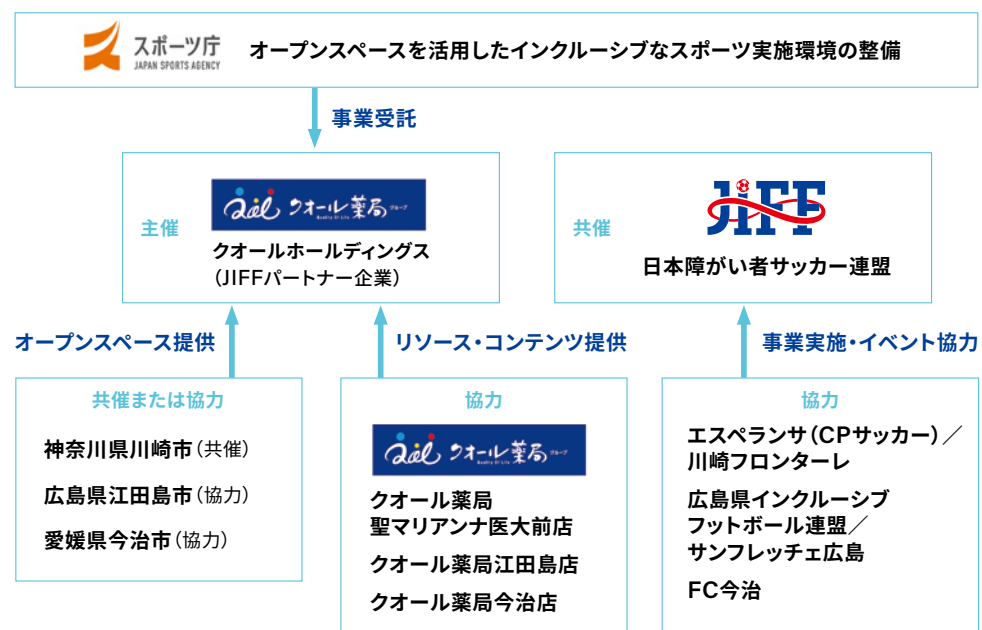
スーパー内で開催された
歩いてシュート!
だれでもウォーキングフットボール
江田島

【日程】2024年1月14日(日)
【会場】ゆめタウン江田島(広島県江田島市)
【協力】一般社団法人広島県インクルーシブフットボール連盟、医療法人社団 大谷会 島の病院 おおたに、江田島市、クオール薬局江田島店、サンフレッチェ広島
【参加者数】35名(障がい当事者69%)
【合計来場者】約70名



サッカースタジアム横で開催された
歩いてシュート!
だれでもウォーキングフットボール
今治

【日程】2024年3月10日(日)
【会場】今治市営スポーツパークサッカー場(愛媛県今治市)
【協力】今治市、今治市教育委員会、FC今治、日本ミニフットゴルフ協会株式会社
【参加者数】72名(障がい当事者15%)
【合計来場者】約140名



スポーツ庁が出展する「経営支援EXPO」等で
企業・自治体・競技団体等へ向けた好事例発表
の場を複数頂きました

スポーツ庁web広報マガジン「デポルタレ」にて、競技団体・企業・自治体・地域団体による新たな連携モデルとして、取り組みを記事化頂きました



2023年度はJIFFが毎年開催している2つのインクルーシブイベントにおいて、新たな試みを実施しました。これまでのイベントでは、障がいの有無に関わらず混ざり合いサッカーを楽しむことで、参加者同士の心のバリアを取り除き相互理解を得ることを目的としたプログラムが中心でした。この活動は維持しつつ、障がいのある子どもたちにより焦点を当てたプログラムにチャレンジしました。

障がい特性や程度に応じて 楽しめるサッカーを見つける 「障がい者サッカーチャレンジひろば」を初実施

12月23日（土）に開催した「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2023」では、障がい特性や程度に応じて楽しめるサッカーを見つけるための「障がい者サッカーチャレンジひろば」を初めて実施しました。これまで情報や機会を届けられていなかった子どもたちやご家族に、まずはサッカーを知ってもらおうことを目指しました。

当日はのべ68名の子どもたちが参加し、視覚



「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2023」の様子

障がい、聴覚障がい、身体障がい、知的・発達・精神障がい等のカテゴリー別で楽しめるサッカーのほか、自分に合った方法を見つけない人向けに、道具・ルール・プログラムを工夫しながらサッカーを行いました。初めてイベントに参加する、初めてサッカーをするという子どもたちも多く、最初は遠慮がちな姿も見られましたが、すぐに打ち解け一緒に楽しむことができました。

自閉症や発達障がいのある人も みんなで学びながら楽しむ新たなプログラムを実施

4月2日の世界自閉症啓発デーにあわせたイベントでは、2018年以降は自閉症のみならず障がいや難病のある方やLGBTなど、多様な人たちと共に楽しむ機会づくりとして「まぜこぜウォーキングフットボール」を中心に活動してきました。2024年3月31日（日）開催の「JIFFまぜこぜフットボール2024」では、自閉症や発達障がいのある



「JIFFまぜこぜフットボール2024」の様子

人も参加しやすいサッカープログラムを通じて、参加者全員が自閉症・発達障がいへの理解を深めることを目指し、新たなプログラムを構築しました。例えば、活動の中で見通しをもちやすくする、言葉による説明だけでなく視覚情報を共有するなど、さまざまな工夫を取り入れました。また、普段からインクルーシブなサッカー活動に携わるコーチの方々と一緒にプログラムづくりを行い、当日はボランティアや参加者の皆さんとも対話し、時には内容を修正しながら進めました。単に混ざり合うだけでなく、誰ひとり取り残されことなく一緒に楽しめるよう、みんなが一緒に考え活動する機会となりました。

JIFFは障がいの有無にかかわらず一緒に楽しむ機会づくりを継続しながら、多様な視点からチャレンジを重ね、誰もが、いつでも、どこでもサッカーを楽しめる環境づくりを加速していきます。

東京都港区・港区教育委員会・JIFFによる 連携協力協定を締結

JIFFは、地域社会の発展と共生社会の実現を目指し、2023年7月に東京都港区および港区教育委員会と「スポーツを通じた地域社会の発展に関する連携協力協定」を締結しました。三者は「はぐくむまちづくり」「にぎわうまちづくり」に障がい者サッカーを活用し、障害者スポーツの振興、障害者理解の促進と次世代育成、スポーツに親しめる環境づくり、障がい者サッカーを通じたまちづくりの社会価値可視化に協働して取り組んでいきます。具体的な活動として、区内小中学校のグラウン

左から、ブラインドサッカー・葭原滋男選手、武井雅昭港区長（当時）、JIFF北澤会長、電動車椅子サッカー・三上勇輝選手、浦田幹男港区教育委員会教育長



連携協力協定締結式

ドや体育間等の施設を利用して日本代表合宿、リーグ戦、親善試合等が開催されており、小中学生が障がいや障がい者サッカーについて学ぶ教育事業も並行して進めてきました。障がい者サッカーだけでなく、ユニバーサルデザイン、ホスピタリティ、情報アクセシビリティについても学んだうえで、大会・イベント等を一緒に作り上げています。

「障がい者サッカー レガシーマッチ2024」開催

連携協力協定に基づき、2024年3月2日（土）には東京都港区主催、JIFF主管のもと、港区スポーツセンターにて「障がい者サッカー レガシーマッチ2024」を初開催。電動車椅子サッカーおよびブラインドサッカー親善試合が行われたほか、デフサッカー・仲井健人選手と元サッカー日本代表の鈴木隆行氏による「サッカーを通じた共生社会づくり」をテーマとしたトークショーも実施され、観戦者・選手・スタッフ等、合計で651名が来場しました。展示ブースでは区内小学校での取り組み展示や、港区立青山小学校あすなろ学級によるまんまるショップ販売ブース等も実施。運営には、港区内の小中学生、スポーツボランティア、在勤者なども参加されました。



試合後、選手・スタッフにはキッズブーケプロジェクトからブーケが贈呈されました

親善試合結果



レインボー・ソルジャー 1-0 Yokohama Crackers



buen cambio yokohama 2-0 乃木坂ナイツ

2023年度は、障がい者サッカー日本代表によるJFAサッカー日本代表ユニフォーム着用が順次開始される歴史的な年となりました。デフフットサル女子日本代表が世界選手権優勝、デフフットサル男子日本代表が冬季デフリンピック準優勝、デフサッカー男子日本代表が世界選手権準優勝、ブラインドサッカー男子日本代表が自力でのパラリンピック出場権を獲得するなど、日本代表チームが躍動しました。

事業面では、既存事業の深化と新規の取り組みを両輪で進めることができました。2016年度から毎年開催している「インクルーシブフットボールフェスタ」では、障がい特性や程度に応じてサッカーを楽しめる取り組み「障がい者サッカーチャレンジひろば」を初めて実施しました。小・中学校向け教育プログラムでは、新たにソーシャルフットボール（精神障がい）、アンプティサッカー（切断障がい）のプログラムを開発しました。

新規事業としては、クオールホールディングス社によるスポーツ庁委託事業として健康増進と共生社会づくりを推進する取り組みを開始し、開催地域の自治体、障がい者サッカーチーム・団体、Jリーグクラブと連携し、3地域でイベントを開催できました。2023年7月には東京都港区、港区教育委員会と連携協力協定を締結し、まちづくりへの障がい者サッカーの活用を開始しました。

組織基盤強化事業

1

JIFFパートナー制度の充実

JIFFの理念・活動に共感いただいた企業と共に、広くサッカーを通じて、障がい者と健常者が混ざり合う共生社会を築いていくためのパートナー制度を運用しました。JIFFパートナー、賛同パートナー、教育コンテンツ開発パートナー、教育プログラム事業協賛のほか、東京都港区との連携協力協定締結（2023年7月）を契機に新たに「みなと地域連携パートナー」を設けました。

※詳細は本紙16～17頁参照

障がい者サッカーに関する相談窓口の運用

障がい者サッカーに関する様々な相談や問い合わせを受け付け、必要に応じて関係する団体と連携しながら、解決に導くように対応しました。主に競技参加や「JIFF指導者登録制度」についての問い合わせなどがありました。

業務時間：月曜日から金曜日の10:00～17:00（祝日は除く）

障がい者サッカー共同事務局の充実

社員の組織基盤の強化および活動のサポートのため、障がい者サッカー共同事務局をより活用しやすいよう充実させました。2023年6月のオフィス移転後もJIFF事務局内に共同事務局を設置し、問い合わせ対応、郵便物対応、情報整理・発信等に関する業務、JFAハウス利用に関する業務の対応が可能な体制で運用しました。

障がい者サッカー日本代表活動におけるJFAとの連携強化

2023年4月より障がい者サッカー日本代表によるJFA日本代表ユニフォーム着用を順次開始しました。活動開始に伴い、日本代表アイデンティティ、マーケティングおよび情報発信に関するガイドライン等の浸透をはかりました。

各種会議の開催

社員の組織基盤強化や組織間の連携を図るための会議を開催しました。また、障がい者サッカー日本代表によるJFA日本代表ユニフォームの順次着用に伴い、新たにマーケティング委員会を設置しました。

コミュニケーション推進事業

2

障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施しました。

- ① 障がい者サッカーに関する情報収集
- ② 本連盟ウェブサイト（日本語版・英語版）の運用およびSNSの活用による情報発信の強化
- ③ JFAの広報ツール（公式サイト、JFAnews等）を通じた情報発信
- ④ デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援
- ⑤ 障がい者サッカー啓発動画の活用

個人向け資金調達の充実

ファン獲得のために次のことを実施しました。

- ① 個人寄付会員制度（JIFFサポート会員）の構築と運用
- ② キフティング（寄付×リフティング）活用の推進
- ③ ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みの運用
- ④ 寄付型支援自動販売機の設置促進

フットボール連携事業

3

JFA公認指導者に対する障がい者サッカー活動への参加促進

JFAまたは都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会（障がい者サッカーコース）の修了者に本連盟から「インクルーシブフットボールコーチ」「JIFF普及リーダー」の登録証を発行し、本連盟から障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進しました。2023年度は新規で156名が登録し、累計690名（延べ人数）となりました。

手話通訳費用の補助制度の運用

JFAまたは都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会/連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に聴覚障がい者が不便なく受講できるようにするため、主催者等に対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用しました。2023年度は3件の制度活用がありました。

「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2023」の対面・オンライン同時開催

東京都内のJリーグクラブ、Fリーグクラブ、WEリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ、障がい者サッカーチーム等の協力により開催しました。新たに障がい特性や程度に応じて楽しめるサッカーを見つける「障がい者サッカーチャレンジひろば」を実施しました。

※詳細は本紙10頁を参照

【開催日】2023年12月23日（土）
【開催方法】対面・オンライン同時開催
【会場】J-SOCIETY FOOTBALL PARK 多摩（東京都多摩市）
【内容】第1部 障がい者サッカーチャレンジひろば 第2部 まぜこぜサッカー／まぜこぜウォーキングフットボール／まぜこぜサッカーオンライン
【参加人数】138名



「インクルーシブフットボールフェスタ広島2024」の開催

広島県インクルーシブフットボール連盟と初めて共同主催で開催し、広島県サッカー協会およびサンフレッチェ広島（Jリーグ）、広島エフ・ドウ（Fリーグ）、A-pfeile広島（障がい者サッカーチーム）、地元の協賛企業29社等の協力を得て実現しました。

【開催日】2024年3月23日（土）
【主催】JIFF、一般社団法人広島県インクルーシブフットボール連盟
【会場】コジマホールディングス中区スポーツセンター（広島県広島市）
【内容】まぜこぜサッカー、まぜこぜウォーキングフットボール、障がい者サッカー体験会（電動車椅子サッカー・フレームフットボール、ブラインドサッカー、デフサッカー、アンプティサッカー）
【参加人数】延べ148名



「JIFFまぜこぜウォーキングフットボール2023」「JIFFまぜこぜフットボール2024」の実施（Warm Blueキャンペーンへの参加）

国連の定める自閉症啓発デー（4月2日）に合わせて、自閉症の方だけでなくその他の障がいや難病のある方、LGBTの方など多様な方が混ざり合っ楽しんでながら普及啓発を行いました。

【事業名】JIFFまぜこぜウォーキングフットボール2023
【開催日】2023年4月2日（日）
【内容】まぜこぜによるウォーキングフットボール、ブルーフラッグづくり、青いものを身につけてSNSに投稿する「ブルーフォト」、個人のチャレンジを社会貢献に繋げる「キフティング」

【事業名】JIFFまぜこぜフットボール2024
【開催日】2024年3月31日（日）
【内容】自閉症や発達障がいのある方も参加しやすいまぜこぜサッカー（※詳細は本紙10頁を参照）、ブルーフラッグづくり、青いものを身につけてSNSに投稿する「ブルーフォト」



JIFFインクルーシブ推進WEEKs

NEW

10月6日の世界脳性まひの日および10月10日の世界メンタルヘルスデーに合わせて、10月2日（月）～10月16日（月）を「JIFFインクルーシブ推進WEEKs」と定めて啓蒙活動を初めて実施しました。期間中は両国際デーを広く周知しながら、障がいおよびメンタルヘルスについての理解を深められる機会や、障がい児者が障がい者サッカー競技や選手と出会える機会をつくるための5つのアクションを実施しました。

【開催日・内容】
① 10月2日（月）～6日（金）グリーンフォトアート
② 10月4日（水）精神障がいのある人を対象とした、オンライン運動プログラム
③ 10月6日（金）JIFFインクルーシブ教育プログラム「CPサッカー」授業
④ 10月10日（火）企業向け「メンタルヘルス」研修
⑤ 10月11日（水）障がいのある子どもたちを対象とした、障がい者サッカー選手交流プログラム



東京都インクルーシブ連携会議

東京都内のサッカー協会、Jリーグクラブ、Fリーグクラブ、WEリーグクラブ、なでしこリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ、障がい者サッカーチームの連携を深めるため連携会議を開催しました（計3回）。

【開催日】2023年6月14日（水）、2023年9月21日（木）、2024年3月18日（月）
【開催方法】オンライン
【内容】各組織の活動紹介、インクルーシブフットボールフェスタに向けた連携など

JFAとのハンドブック配布

JFAが「Football for All」JFAグラスルーツ宣言の実現、SDGsの取り組みの一環として制作した「『ひろげよう！ サッカーファミリー 次の100年へ 誰一人取り残さない世界を 障がいのある仲間とともに』」「JFA審判員向け障がい者サッカーハンドブック」等、継続して配布を行いました。

2023年度 事業報告

2023年4月1日～2024年3月31日

コンテンツ開発事業

4

小・中学校向けオンライン教育プログラムの実施

2022年度より事業化した小・中学校向け教育プログラムは、2023年度はオンライン授業（45分）と対面授業（90分）を合わせて115件実施しました。これまでのロービジョンフットサル（視覚障がい）、デフサッカー/フットサル（聴覚障がい）、CPサッカー（脳性まひ）のプログラムに加え、新たにソーシャルフットボール（精神障がい）、アンプティサッカー（切断障がい）のプログラムを開発しました。

【実施授業数】115件（2022年度から累計207件）
【体験人数】3,594人（2022年度から累計6,507人）

eラーニング 研修プログラムの実施

eラーニング研修プログラム「サッカーを通じた障害理解」（全70分）を受講するためのプラットフォームのサービス提供（learning BOX社より）を受け、社内でプラットフォームを持たない企業および個人への案内が可能な体制を整え継続運用しました。

【研修内容】「サッカーを通じた障害理解」全70分
1.障害の社会モデル・障害者差別解消法について
2-1.身体障害者の特性と接し方について
2-2.～障がい者サッカーの現場から
3-1.知的・精神障害者の特性と接し方について
3-2.～障がい者サッカーの現場から
4.エンディング

「歩いてシュート!だれでもウォーキングフットボール」の開催 **NEW**

クオールホールディングス社によるスポーツ庁委託事業として、オープンスペースを活用したウォーキングフットボールイベントを開催しました。同社主催、JIFF共催のもと、開催地域の自治体、障がい者サッカーチーム・団体、リーグクラブと連携し、障がい者スポーツの環境整備に取り組むとともに健康増進と共生社会づくりを推進し、神奈川県川崎市、広島県江田島市、愛媛県今治市で実施しました。

【開催日・内容】
①第1回：2023年10月7日（土）神奈川県川崎市
【会場】等々力緑地内 催し物広場
【共催】川崎市
【協力】一般社団法人パラSCエスベランサ、川崎フロンターレ、クオール薬局聖マリアンナ医大前店
②第2回：2024年1月14日（日）広島県江田島市
【会場】ゆめタウン江田島
【協力】一般社団法人広島県インクルーシブフットボール連盟、医療法人社団 大谷会 島の病院おたに、江田島市、クオール薬局江田島店、サンフレッチェ広島
③第3回：2024年3月10日（日）愛媛県今治市
【会場】今治市営スポーツパークサッカー場
【協力】今治市、今治市教育委員会、FC今治、日本ミニフットゴルフ協会株式会社
※詳細は本紙8～9頁を参照



「障がい者サッカーレガシーマッチ2024」の開催 **NEW**

2023年7月の港区、港区教育委員会、JIFFの3者による連携協力協定に基づき、東京都港区主催、JIFF主管のもと、3月2日（土）に港区スポーツセンターにて「障がい者サッカー レガシーマッチ2024」を初開催しました。

※詳細は本紙11頁を参照

【開催日】2024年3月2日（土）
【会場】港区スポーツセンター・メインアリーナ、会場提供：港区立芝浜小学校（同会場併設）
【内容】
・電動車椅子サッカー親善試合
・ブラインドサッカー親善試合
・トークショー「サッカーを通じた共生社会づくり」
・スポーツいろいろ体験（ミニフットゴルフ体験／ブラインドサッカー体験／電動車椅子サッカー体験）
・いろいろ展示ブース（障がい者サッカー紹介コーナー／まんまるショップ販売ブース／浜松町・芝・大門百景・マーチング委員会コーナー／アビリンピック展示／東京都ブース）



その他

5

東京都港区との連携 **NEW**

地域社会の発展と共生社会の実現を目指し、2023年7月に東京都港区および港区教育委員会と「スポーツを通じた地域社会の発展に関する連携協力協定」を締結しました。

※詳細は本紙11頁を参照

パラフットボール財団との国際連携

障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組むパラフットボール財団（オランダ）と連携し、アフィリエイトFA（会員組織）登録を継続しました。

2024年度 事業計画

2024年4月1日～2025年3月31日

組織基盤強化事業

1 障がい者サッカーに関する相談窓口

障がい者サッカーに関する様々な相談や問い合わせを受け付け、必要に応じて関係する団体と情報共有しながら、解決に導くように対応します。

2 障がい者サッカー共同事務局の充実

社員の組織基盤の強化および活動のサポートのため運用を開始した障がい者サッカー共同事務局をより活用しやすいよう充実させます。

3 JIFF パートナー制度・研修プログラムの充実

JIFFパートナー制度を効果的に運用し、パートナーを拡大することで、事務局運営基盤の強化および社員の活動サポートの原資を確保します。企業向け研修プログラム等を充実させ、オンラインおよび対面での実施を促進します。

4 コンプライアンス整備

JIFFと社員で構築したコンプライアンス連携体制を運用し、情報発信、会議、研修の企画実施等で整備を図ります。

5 各種会議の開催

社員の組織基盤強化や組織間の連携を図るための会議等を開催します。

6 障がい者サッカー日本代表活動におけるJFAとの連携強化

障がい者サッカー日本代表活動におけるJFA との連携を強化し、体制整備と基盤強化に取り組みます。また、日本国内での国際大会開催のためのサポートを行います。

コミュニケーション推進事業

1 障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施します。

- ① 障がい者サッカーに関する情報収集
- ② 本連盟ウェブサイト（日本語版・英語版）の運用およびSNSの活用による情報発信の強化
- ③ JFAの広報ツール（公式サイト、JFAnews等）を通じた情報発信
- ④ デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援
- ⑤ 障がい者サッカー啓発動画による認知拡大

2 個人向け資金調達の充実

ファン獲得のために次のことを実施します。

- ① JIFFサポート会員（個人寄付会員制度）の運用
- ② キフティング（寄付×リフティング）活用の推進
- ③ ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みの運用
- ④ 寄付型支援自動販売機の設置促進

フットボール連携事業

1 JFA公認指導者に対する障がい者サッカー活動への参加促進

JFAまたは都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会（障がい者サッカーコース）の修了者に本連盟から「インクルーシブフットボールコーチ」「JIFF 普及リーダー」の登録証を発行し、本連盟から障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進します。

2 手話通訳費用の補助制度の運用

JFAまたは都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会／連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に聴覚障がい者が不便なく受講できるようにするため、主催者等に対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用します。

3 インクルーシブフットボールフェスタの開催

共生社会の実現のため、障がい者も健常者も混ざり合ってサッカーを楽しむインクルーシブフットボールフェスタを開催します。開催地は東京、広島において継続します（広島は地域主体での開催）。

① 事業名：JIFF インクルーシブフットボールフェスタ2024
開催日：2024年12月（予定）
会場：J-SOCIETY FOOTBALL PARK 多摩（東京都多摩市）を予定

② 事業名：インクルーシブフットボールフェスタ広島2025
開催日：開催時期未定 会場：広島県内を予定

4 世界自閉症啓発デーに合わせたイベントの実施（Warm Blueキャンペーンへの参加）

4月2日世界自閉症啓発デーに合わせて、自閉症や発達障がいをはじめ障がいの有無や種別に関係なく、一緒にサッカーを楽しむイベントを実施します。

事業名：JIFFまぜこぜフットボール2025
実施内容：自閉症の方も楽しめるサッカー、ウォーキングフットボール、キフティング等
実施日：イベント 2025年3月30日（土）
会場：武蔵野の森スポーツプラザ・サブアリーナ（東京都調布市）

5 世界脳性麻痺の日およびメンタルヘルスデーに合わせた啓蒙活動の実施

10月6日世界脳性麻痺の日、10月10日世界メンタルヘルスデーに合わせて、10月1日～10日に多様な方が混ざり合って楽しみながら啓蒙活動を行います。

6 全国障がい者サッカー連携会議の開催

各地域において障がい者サッカーの連携を図るため、JFA とともに、全国障がい者サッカー連携会議を開催します。

地域共創事業

1 教育プログラムの実施

小・中学校向けにインクルーシブ教育プログラムを行う。デフサッカー／フットサル・ロービジョンフットサル・CPサッカー・ソーシャルフットボール・アンプティサッカー以外の障がい種別のプログラムを新たに開発し提供します。

2 イベント等の実施

パートナー企業や自治体、関係団体等と協働し、障がい者サッカーおよびウォーキングフットボールを活用してのイベント等を行います。

その他の事業

1 パラフットボール財団との連携

協力協定を締結しているパラフットボール財団（オランダ）と連携し、障がい者サッカーの国際的な普及・発展に取り組みます。

2 自治体との連携

協力協定を締結している東京都港区との連携を深め、社会価値の可視化に取り組みます。

3 新規事業の開発

環境に関する社会課題も視野に入れた価値共創、各日本代表チームの運営効率化を目的としたクリーニングに関する新規事業に取り組みます。

パートナー／支援団体／助成団体

JIFFの理念・活動に共感いただいた企業と共に、サッカーを通じて共生社会を築いていくため、パートナー制度を設けています。本制度の概要および、2024年7月時点でのパートナー企業、ご支援、助成いただいている団体をご紹介します。

JIFFパートナー制度について

JIFFでは、ご支援・ご協力いただいている法人企業のみなさまを「パートナー」と呼んでいます。一方的な支援になりがちな障がい者スポーツですが、JIFFとパートナー企業は、JIFFが理念に掲げる「共生社会」を共に創り上げていく仲間です。障がいについて学ぶ機会や障がい者サッカーを通じて、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの大切さに気づく場の創出を目指し、JIFFパートナー企業向けに障がい者サッカーの体験・研修・講演のプログラムを実施しています。



パートナー企業／支援団体／助成団体一覧 ※2024年7月時点

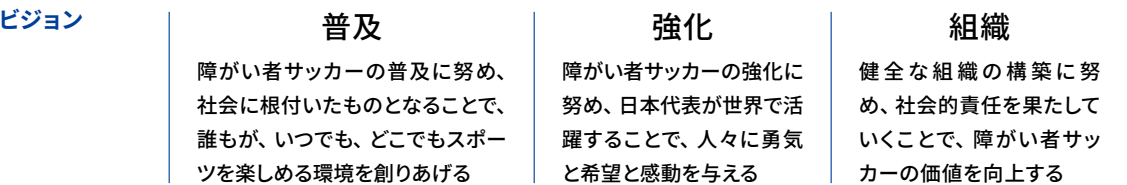
支援団体  一般財団法人日本サッカー後援会		JIFFパートナー  株式会社オープンアップグループ  クオールホールディングス株式会社  ナブテスコ株式会社  日本マクドナルド株式会社		Johnson&Johnson ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ		住友ベークライト 住友ベークライト株式会社		東京海上日動 東京海上日動火災保険株式会社			
		 ビーウィズ株式会社		 三菱商事 三菱商事株式会社							
賛同パートナー  株式会社協同  株式会社 クリエイティブヘッズ  株式会社丹青社  デル・テクノロジー 株式会社		教育コンテンツ開発パートナー  株式会社マネジメントソリューションズ		インクルーシブ教育プログラム事業協賛  中外製薬株式会社  リコーリス株式会社  株式会社インフォーマート  共和ゴム株式会社		熊谷組 株式会社 熊谷組		Nabtesco ナブテスコ株式会社			
協力協定  Para Football 財団  東京都港区		みなと地域連携パートナー  日鉄興和不動産 株式会社  リンクス 株式会社		サプライサービスパートナー  共和ゴム株式会社  株式会社PR TIMES		 株式会社 マネジメントソリューションズ  株式会社吉岡  learningBOX株式会社		メディアパートナー  「ゲキサカ」株式会社講談社が 運営するデジタルサッカーメディア		アライアンスパートナー  公益財団法人 日本ケアフィット共育機構 そっと、きっと、あんしんを。 公益財団法人 日本ケアフィット共育機構	

JIFF概要

JIFFはJFAの関連団体で、JFAと協働し、7つの障がい者サッカー競技団体の活動をサポートする中間支援組織です。

理念

広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する



名称

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
Japan Inclusive Football Federation

設立

2016年4月1日

役員

※2024年7月現在

会長	北澤 豪
副会長	佐々 毅 (特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会) 神 一世子 (一般社団法人 日本CPサッカー協会)
専務理事	松田 薫二 (公益財団法人 日本サッカー協会)
理事	魚住 稿 (特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会) 鈴木 宏和 (特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟) 浜津 哲也 (一般社団法人 日本ろう者サッカー協会) 日比野 暢子 (桐蔭横浜大学) 宮本 彩 (特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会) 山木 譲 (一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会)
監事	樽本 哲 (弁護士) 奥村 武博 (公認会計士)

社員構成

特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会
一般社団法人 日本CP サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会
特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟
一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会
一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

所在地

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

公式サイト

<https://www.jiff.football>

公式SNS

Facebook	https://www.facebook.com/jiff.football/
X	https://x.com/JIFF_Football
Instagram	https://www.instagram.com/jiff_football/

障がい者サッカーに関する相談窓口 **03-3818-2031** (平日10:00～17:00)

財務報告

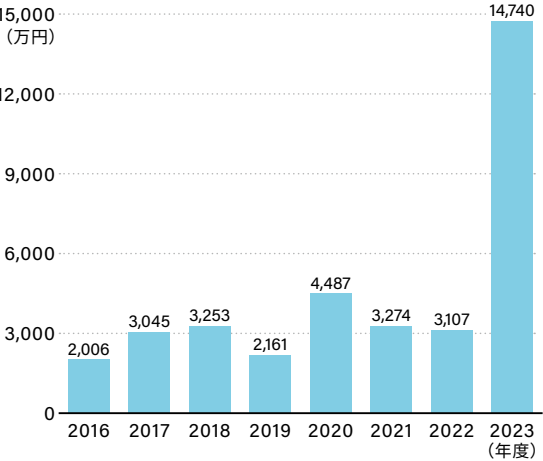
2023年度は、悲願である障がい者サッカー日本代表によるJFAサッカー日本代表ユニフォーム着用が順次開始される歴史的な年となりました。事業面では「インクルーシブフットボールフェスタ」や「インクルーシブ教育プログラム」等の既存事業の深化と、東京都港区との連携協力協定やパートナー企業との協働によるスポーツ庁事業受託等に新規に取り組み、両輪で進めることができました。

これらに伴い、障がい者サッカー日本代表活動費

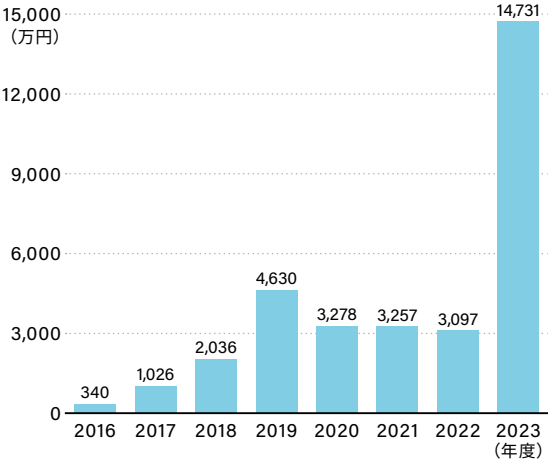
(ライセンス料)、パートナー企業や自治体との事業費等、収支ともに大きく増加しました。また、事業拡大に合わせて、新たなパートナー企業および事業協賛企業を迎えることができました。

2024年度は、引き続き不透明な経済状況が予想されますが、障がい者サッカー日本代表活動におけるJFAとの連携強化、パートナー企業や自治体等との参加型の取り組みをさらに充実させ、皆様のご支援により財源の一層の安定化を図り、共生社会の実現に向け事業を展開していきます。

収入推移



事業別支出推移



活動計算書

2023年4月1日～
2024年3月31日

			(単位:円)
		科目	金額
経常収益	受取会費	正会員受取会費	700,000
	受取寄附金	受取寄附金	7,294,767
	受取助成金等	受取国庫助成金・受取民間助成金	200,000
	事業収益	組織基盤強化事業収益	108,078,977
		コミュニケーション推進事業収益	878,600
		フットボール連携事業収益	3,181,523
		コンテンツ開発事業収益	13,895,728
		ファンドレイジング等収益	13,179,001
	その他の収益		789
経常収益 計		147,409,385	
経常費用	事業費	人件費	9,638,160
		その他経費	123,488,793
	管理費	人件費	6,291,321
		その他経費	7,891,732
		経常費用 計	
当期経常増減額		99,379	
税引前当期正味財産増減額		99,379	
法人税、住民税及び事業税		70,000	
前期繰越正味財産額		36,225,483	
次期繰越正味財産額		36,254,862	

貸借対照表

2024年3月31日現在

						(単位:円)	
科目			金額	科目			金額
資産の部	流動資産	現金預金	143,306,151	負債の部	流動負債	未払金	4,493,502
		立替金	227,700			未払法人税等	70,000
		未収入金	7,325,921			未払消費税等	1,549,600
		前払費用	1,307,000			預り金	335,844
	流動資産	計	152,166,772		前受収益	109,463,964	
資産の部 合計			152,166,772	流動負債	計	115,912,910	
				負債の部 合計			115,912,910
				正味財産の部	前期繰越正味財産額		36,225,483
					当期正味財産増減額		29,379
				正味財産の部 合計			36,254,862
				負債及び正味財産 合計			152,167,772

個人で応援できること



「JIFFサポート会員」になる

サッカーを通じた共生社会の実現に向け、
活動のサポーターとなる個人の継続寄付会員

日本障がい者サッカー連盟（JIFF）は、個人の継続寄付会員制度として「JIFFサポート会員」を募集しています。月1,000円からの入会が可能であり、いただいたご寄付は、すべて7つの障がい者サッカーの普及・発展および共生社会の実現に向けた活動に充てさせていただきます。

JIFFサポート会員特典

- JIFF年次報告書（毎年8月頃に送付）
- JIFF主催イベントの優先申込権 ほか
- JIFFノベルティグッズ

※特典は変更となる場合がございます。



▶ 入会方法・詳細

<https://www.jiff.football/special/kifu-2021/>



Vポイントで寄付する

聴覚障がい者のスポーツ参画を応援する

聴覚障がいの場合、聞こえないまたは聞こえにくいことを除けば健常者と変わらないにも関わらず、情報保証がなされないことで指導者や審判員としてのチャレンジを断念しなければならないことが多くあります。本寄付金は、JIFFの「手話通訳費用補助制度」により、講習会や研修会の手話通訳費用に使用されます。1円からの寄付、Vポイント1ポイントからの寄付が可能です。



▶ ご寄付のご案内

<https://www.jiff.football/join/support/>



読み終えた本で寄付する

障がい者サッカー全体を支援する

不要になった古本やDVD、ゲーム、デジタル家電等を寄贈していただき、その買い取り額相当がJIFFに寄付される仕組みです。古本買取専門店「本棚お助け隊」が提供するファンデレイジング支援プログラムであり、回収用のダンボールは無料で、ゆうパックで全国無料集荷も可能です。また、郵便局やローソンから気軽に発送できます。



一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟

ANNUAL
REPORT 2023

年次報告書2023／2024年7月発行
©2024 Japan Inclusive Football Federation